

秋の狂犬病予防集合注射を行います

狂犬病予防注射の対象は、本年度未接種の犬と新しく飼いだめた犬です。市にまだ犬の登録をしていない場合は、当日、会場にて新規登録の手続きと予防注射が同時に可能です（登録手数料として3,000円が別途必要）。

すでに登録済みの飼い主の皆さんには、案内はがきを10月上旬に送付します。裏面の問診表に記入の上、会場にお持ちください。天候や新型コロナウイルス感染症対策のため中止になる場合は、市ホームページでお知らせします。

■問い合わせ 本庁生活環境課環境係（☎34-2340）

【日程表】 ※希望の実施日・会場で受けることができます

地域	実施日	時間	会場
水 沢	10月24日 日	9:00 ~ 9:30	水沢地区センター
		9:50 ~ 10:10	真城地区センター
		10:30 ~ 10:40	常盤地区センター
		10:55 ~ 11:15	Zホール北側第3駐車場
江 刺	10月17日 日	9:00 ~ 9:40	岩谷堂地区センター
		10:00 ~ 10:30	玉里地区センター
		10:50 ~ 11:05	藤里地区センター
前 沢	10月16日 日	11:30 ~ 12:00	前沢総合支所北側車庫
		8:45 ~ 9:00	南都田地区センター
胆 沢	10月16日 日	9:20 ~ 9:30	若柳地区センター
		9:50 ~ 10:15	小山地区センター
衣 川	10月16日 日	10:45 ~ 11:00	衣川セミナーハウス

- 生後91日以降の犬には、犬の登録と毎年の狂犬病予防注射が義務付けられています。犬を飼い始めたから30日以内に登録しましょう。
- 犬の放し飼いは違法です。放し飼いや逃亡した犬の苦情が多く寄せられています。リードを付けるなど、犬が逃げないようにしましょう。
- 犬が苦手な人もいます。散歩をするときはリードが伸びないものを使い、ふんの持ち帰りやおしっこに水をかけ流すなどのマナーに注意しましょう。

注射料金
3,100円（注射済票交付料金含む）

注意事項

- ①首輪が抜けないうっかり確認しましょう
- ②犬を制止できる人が連れてきましょう
- ③会場でのふんは、飼い主が持ち帰りましょう



東上野町の「地域猫」事業を知り、さくら猫の里親となった

及川 智実 さん（68）
前沢白山字水ノ口

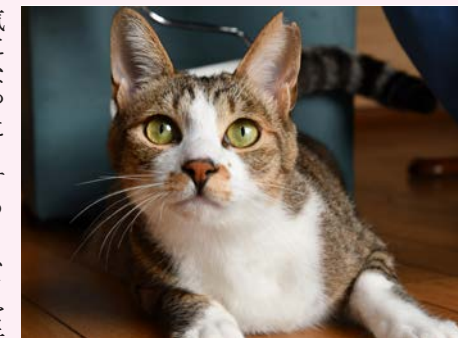
昨年飼っていた猫が天国へ旅立ってしまった、寂しい思いと心のどこかに穴が空いてしまったような気持ちで数カ月生活していました。

地元新聞紙を読んでいると、東上野町の地域猫活動が紹介されていて、その中で里親を募集していました。すぐに新聞会社に連絡をして岩淵さんを紹介してもらい、子猫を新しい家族として迎え入れました。

さくら猫は去勢・不妊手術がされています。飼育する猫は、ほかの猫に迷惑を掛けたり、病



猫への愛情を語る智実さん



耳のカットがさくら猫の証

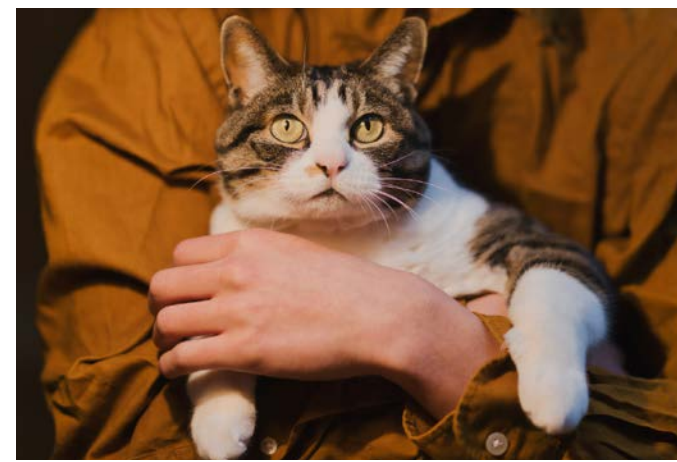
気になったりするリスクを考慮して手術が必要かと思っていたので、出会えたことに運命を感じています。

猫は9月生まれだったので、「九太郎」と名付けました。大好きなおもちゃにじゃれているかわいい九太郎を見ている時間が一番幸せですね。動物は気持ちが通じ合えるかけがえのない存在です。この先も愛情を込めて九太郎を育て、「猫が生活」を楽しみたいと思います。

猫との接し方を見直しましょう

近年、庭や花壇が荒らされたり、ふん尿による被害が生じたりするなどの「猫被害」の相談が増えていきます。家庭で飼育する猫は家族の一員です。しっかりとルールやマナーを守り、責任をもって飼育しましょう。

野良猫に餌を与えることは責任が伴います。むやみに餌を与えると、その場所や周辺に住んだり、集まったりして近隣の皆さんに迷惑を掛けることがあります。近隣の皆さんの理解が得られるよう、餌の後片付け、ふんの後始末、不妊・去勢手術をお願いします。



動物と共生できる社会を目指して

私たち人間と動物とがお互いに手を取り合い、共生できる社会を目指すためには何が必要でしょうか。はじめに動物を迎え入れる時を考えてみましょう。動物を飼うということは、その動物の「命を預かる」ことです。今のことを考えて飼育を始めては絶対いけません。その動物について十分な知識を得て選択しましたか。しつけが必要な場合、ちゃんと決められたら、その動物が幸せになるよう常に愛情を持ち、最後まで責任を持って正しく飼育することが必要不可欠です。

次にすでに飼育している時を考えてみます。あなたは飼っている動物に正しい知識で接していますか。初めのう

りっぱなしにしていたり、健康管理を怠ったり、劣悪な環境で飼育していませんか。動物がストレスを感じることがないように飼育しましょう。また動物にはそれぞれの本能や習性、特性といったものがあります。それらを十分理解した上で、人間社会の中で人と動物が調和のとれた関係性を保つことができるのではないのでしょうか。もちろんこれは犬・猫に限らず全ての動物に共通していただけることです。私たちは飼育する動物を選ぶことができますが、動物たちは飼育される人間を選ぶことはできません。動物愛護週間をきっかけに、動物を飼育している人はあらためて動物との触れ合い方を、飼育していない人はこれから動物との接し方を見直してほしいと思います。

